スローライフに生きる！
その3

お金に縛られない生き方を

必要なものは作る、借りる、物々交換する そして買うのは最後にする

自然と暮らしと平和のがっこう
「beart」主宰
後藤 彰 Goto Akira

何でもそうですが、まずやってみるということが非常に大事です。

多くの人が「難しそう」と、自分で制限をかけてしまいます。

僕は反対に、何でも「やってみたい！」と思うんです。

麹（こうじ）を仕込むのも、初めは「難しそう」と思ったんですが、調べてみたらできそうだったので、実際にやっている人のところに習いに行って、やってみたらできました。

自分で試行錯誤して、手足を動かして、何かを作り出すということが一番面白いんです。

たとえば麹って、微生物が動き回って発熱するので、実際に触ると温かいんです。「菌が動いて熱が出る」と聞いても意味が分からないかもしれませんが、実際にその現象を目の当たりにすると、本当に感動します。生かされていると言う言葉の意味もよく分かります。

●●●

田舎での生活の面白さはいろんなところにあります。

例えば、キクイモというイモは、食べ切れないほど取れます。

去年は収穫すらできずにそのままにしていたものが多かったので、今年は、「キクイモ欲しい人、物々交換しましょう」と言って呼びかけました。

そしたら10件以上のオファーが来て、干したワカメ、大豆、手作りのお菓子、手作りの味噌と醤油、手作りのリンゴジュースなどを頂きました。

自分のところで余っているものを送っただけなのに、もらい過ぎだと思うくらい頂きました。

去年は柚子で同じことをやって、Tシャツや野菜が送られてきました。

送料はかかりますが、それ以上に、面白さと、豊かな人とのつながりを感じます。

物々交換というのは、これからの生き方として、「お金に振り回されない」という意味ですごく大事だと思います。

●●●

つい先日も、麹を仕込みたいので、「お米が欲しい」と有機農業をやっている知り合いに頼んだら、「3年前のお米がまだ残っている。籾（もみ）で保存してあるから全然悪くなってない」ということだったので、40キロお願いしました。

タダでもらうのは悪いから、「コーヒーと物々交換か、現金で1キロ200円くらいで」と話をしたら、「提案があるんだけど、田んぼの作業が追い付いてないから1日手伝ってくれないか」と言われました。1日手伝って、40キロのお米をもらって帰ってきました。

こういうことは、自然があるからできることですよね。自然の恵みを分かち合っているわけです。

こんなことができるのも田舎の面白さです。

●●●

とにかく、自分の手足を動かして作ることが大事です。そうすると、支出を抑えることができます。

僕の場合、月の電気代500円、ガス代1000円、家賃は周囲の草の管理などと引き換えにゼロ、水道は井戸水なのでゼロ。

そうすると、ライフラインにかかるお金は、1か月3万円も要らないわけです。

今の世の中って、いろんなことにとにかくお金がかかる仕組みになっています。強制的に消費者にさせられちゃうんです。

そこから抜け出て、自分で作る、拾えるものを使う、借りられる人から借りるということをやっていくと、お金を使わなくても生きていけるということが分かると思います。どこかで拾えないか、誰かから借りられないかを考えて、買うのは最後にするんです。

実際にそういうふうにやっていくと、周りの人といい関係もできていきます。もらったり借りたりする一方で、自分も返せるものを返していくので、つながりができていくんです。

（宮崎市で開催されたお話会より）